

第1回アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会

議事要旨

■ 日時：平成22年8月26日（木）10:00～12:00

■ 場所：福岡市役所本庁舎9階 特別第2会議室

■ 出席者： (順不同、敬称略)

委員長	出口 敦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
委員	青 和彦	西部ガス株式会社リビングエネルギー本部リビング営業部部長
	赤司 泰義	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	末廣 香織	九州大学大学院人間環境学研究院准教授
	蜷川 利彦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	橋本 淳	福岡市環境局温暖化対策部長
	永富 伸二	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部長
オブザーバー	津幡昭宏	九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ課長
	(橋本 上	九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ長代理)
事務局	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部企業誘致課	

■ 配付資料：

- ・委員名簿、座席表
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会設置要綱(案)
- ・情報公開の取り扱い(案)
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョンの策定について
- ・スケジュール(案)

■ 議 事：

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 議事

(1) 検討委員会の運営について

事務局より、アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会設置要綱(案)、情報公開の取り扱い(案)を説明。

委員等	・「会議は公開する」とあるが、会場に傍聴者が入る場合があるということか。
事務局	・本会議は、福岡市の情報公開制度に基づき、事前にHPで会議開催を告知し、希望があれば、傍聴を認めることになる。各回必ず市民が傍聴するというわけではない。

以上の質疑を経て、アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会設置要綱(案)、情報公開の取り扱い(案)については、承認された。

承認された当委員会設置要綱に基づき、委員の互選により、出口委員が委員長に指名された。また、出口委員長により、赤司委員が副委員長に指名された。

(2) 国・本市等における低炭素型社会に向けた動き

事務局より、「国・本市・アイランドシティにおける低炭素社会に向けた動き」の説明があった。説明後、以下の質疑、意見があった。

- 委員等
- ・ p35 に示されている数値は 2010 年度の部門別 CO2 削減目標値（2004 年度基準）、p37 に示されている数値は 2010 年度の削減量（試算値）という理解でよいか。
- 委員等
- ・ CO2 排出量は、2 年遅れで公表しているのので、現在確定している最新値は 2008 年度の排出量である。2010 年度試算値によれば、家庭部門では、2010 年度目標値 8%減に対して 14.5%増、業務部門では同じく 14%減に対して 20%増、自動車部門では同じく 8%減に対して 1%減となっている。
- 委員等
- ・ 国で CO2 削減目標値が示されているが、アイランドシティでも、それに近いもの、準拠したものを設定するのか。
- 委員等
- ・ 現在、温暖化対策実行計画を改定中である。来年度には新たな目標値を設定する予定である。国では「2050 年に 80%削減（対 1990 年比）」としているが、福岡市では、産業構造の違いがあり、90%削減しないと国の考え方と整合しない。全体の見通しとしては国と整合させていくことになるだろうが、それに向けて、短期的(2012 年)、中期的(2020 年)にどのようなカーブで実現していくのか、検討している。
 - ・ これまで単体の施策は打ち出しているが、今後は面的な取り組みも必要と考えている。その対象としていくつかの拠点を採り挙げるが、新しい市街地であり、取り組みやすいという観点から、アイランドシティも当然その一つと考えている。本委員会では、福岡市全体の計画に先行して、アイランドシティの計画についてご議論いただくかたちになる。
- 委員等
- ・ 低炭素化を進めるためには、建築物や住宅の建設に用いる材料についても考慮が必要である。そこまで踏み込むか。
- 委員等
- ・ 本ビジョンでもゼロ・エネルギー住宅等のメニューを挙げており、材料等についても議論の対象になってくるであろう。
- 委員等
- ・ 断熱性能といった観点だけでなく、リサイクル、木造・コンクリートの特性の違いなどの観点もあろう。
- 委員等
- ・ 資源循環という観点をどう盛り込むか。
- 委員等
- ・ 資料 p39 にあるように、「アイランドシティ事業計画」で示されている推進方針で、資源循環に関する方針が挙げられている。具体的にはどのように目標を立てるのか。
- 事務局
- ・ スケルトンインフィル住宅等の導入といったメニューは挙げているが、推奨すべき材料等の視点は考慮されていない。どのような内容を盛り込んだらよいか、ご指導いただければと思う。
- 委員等
- ・ 市が提示している CO2 削減量の数値目標は、ランニングに力点をおいて設定されているようであるが、ストックを作っていく段階での CO2 削減をどう取り扱うか。
- 委員等
- ・ 建築物の CO2 排出量は、建設時と運用時の比は 1:2 程度と考えられるので、CO2 排出量の 1/3 程度は建設時に発生する。

- 委員等
 - ・市が示している CO2 削減目標値は、建物の建設等に際して発生する CO2 排出量も含まれているのか。
- 事務局
 - ・削減量の単位が世帯当たりで示されているので、ランニングに際しての削減量のように見えるが。
 - ・数値目標については、設定方法等を改めて確認のうえ、御報告したい。
- 事務局
 - ・全市を対象として策定されている地球温暖化対策推進計画では、面的に対策を導入する視点が弱い。アイランドシティでは、面的対策の導入を打ち出していきたい。ただし、当然、全市の計画とのつながり、整合を採っていく必要がある。次回には考え方を整理してご説明させていただきたい。
- 委員等
 - ・「全体の底上げを図る施策に取り組んできたが、功を奏していないので、モデルを採り挙げて重点投資を行って成功例を示して、それを波及させていくほうが効果が期待できる」という考え方か。
- 事務局
 - ・その通りである。全市のモデルとなるような施策をアイランドシティで展開して、それを波及させていくという観点から検討していきたい。

(3) ビジョン策定の目的・検討内容等について

事務局より、「アイランドシティ低炭素型都市ビジョンの策定について」の説明があった。説明後、以下の質疑、意見があった。

- 委員等
 - ・本日ご説明いただいたのは、ビジョンの目次構成ということか。
- 事務局
 - ・その通りである。
- 委員等
 - ・対象エリアとして「市5工区を中心としたまちづくりエリア」とあるが、具体的にはどのエリアを指すのか。
- 事務局
 - ・まちづくりエリアの北半分の、これから工事を行うエリアを指しているが、博多港開発工区の未処分エリア（約 15%）も含めたい。すなわち、今後新たに進めていくエリア全てを対象とするという意味である
 - ・これに含まれない、すなわち既に建物・施設が立地しているエリアについても、更新の際に新たなメニューを取り込んでいくことその他、新たにエリアと一体となったマネジメントへの参加を促していきたい。
- 委員等
 - ・既存エリアについては、分野別方向性で挙げられている「環境活動」への参加等が考えられる。
- 事務局
 - ・エネルギーの把握とそれに基づくアドバイスなどについても検討すべきメニューであろう。現実的には、費用を必要とする内容と必要としない内容とに切り分けて適用する等の対応も必要と考えている。
- 委員等
 - ・ビジョンを構成する項目は性能的な内容が主になっているが、デザイン面、景観面をどのように取り込んでいくのか。今までの街と「見た目も違う」ということも重要であるため、ビジュアル的なものを策定時に見せる必要がある。
- 事務局
 - ・事業者から提案されている CO2 ゼロ街区計画についても、俯瞰パースを見る

- 限りでは、これまでの街との違いは分かりにくい。
- ・アイランドシティでは「景観ガイドライン」を策定して街づくりを誘導してきており、一定の成果は得られていると思う。環境に関する「見せ方」は重要と考えるが、具体的にどうしていけばよいか。
- 委員等
- ・これまでと論理が変わっていくので、デザインが変わってくる。それが見せられればよい。
 - ・また、一般の人にどうアピールできるかが大事であり、イベントを行うなど広報戦略も重要。
- 委員等
- ・海外の事例も鳥瞰パース的なもので説明されている。分野別の取り組みの方向性など、言葉や数字で表現されるものについては、どれくらいの施設がどのように配置されるのか、ある程度絵を描いてみないとわかりにくいのではないか。
- 事務局
- ・対岸からの見え方などで示すのも一案か。
- 委員等
- ・ガイドライン的に建築単体を、パースのようなもので示すとすれば、その時に街並みについてもイメージとして伝わればよい。
- 事務局
- ・メガソーラーシステムのようなシンボリックな姿は分かり易いが、個別の住宅についても、イメージが伝わるものが描ければよいと思う。
- 委員等
- ・どのような技術が街の中に埋め込まれているのか、分かるようなものがあると良い。例えば断面図で示すのも良い。
- 委員等
- ・まとめた内容を最後にどう示すか、が難しい。
- 委員等
- ・イメージしたものを形に示さざるを得ないのではないか。「そうならねばならない」とまでは言えないが、それが魅力的なものであることが重要。
- 委員等
- ・デザインコードのようなものを定めるのも一案である。
- 委員等
- ・これまでのデザインコードは、街並みをコントロールするためのものであったが、環境をコントロールするためのデザインコードがあっても良い。
- 事務局
- ・具体的にどのようにしていけばよいか、検討させていただきたい。
- 委員等
- ・「1. 目的」の3番目に「モデル事業」が挙げられているが、モデル事業は単発に終わってしまう懸念もある。
- 事務局
- ・モデル事業は、絵に描いた餅にならないように、実際に事業化するという意義があると考えている。モデル事業を実施することで、中期的な課題がみえてくる場合もある。モデル事業を組み込んでいくことで、ビジョンの信憑性、迫力が増すと考えている。
- 委員等
- ・「(2) 取り組みの方向性①全体(ウ)モデル性」の項で、「今後一般に普及すると見込まれる先端技術の導入」が挙げられているが、住民や事業者へのメリットも含めて、普及させていくための制度、政策をどう整えていくかが重要である。本日説明いただいたビジョン項目原案では、制度、政策の視点が不十分のように見受けられる。
- 委員等
- ・モデル事業を実施した成果を政策に置き換えていくことが必要。そのことについて文言を追加しておくとうい。
- 事務局
- ・分野別に、中長期の国の施策に対して、市がどう取り組んでいくか、を整理していきたい。
 - ・環境局に太陽光発電システム導入等への補助制度があるが、港湾局では補助

- 制度は持っていない。また、環境局の補助も単体の補助であり、国の事業のようにまとまった規模の補助を得ることは難しい。
- 委員等
- ・新規導入や機器更新に際して、機器単体への補助はあって悪いことはないが、その恩恵にあずかる人とそうでない人が生ずる。エコカー減税は、自動車利用を避けて、自転車を利用したり、歩いて生活している人には恩恵はない。省エネ型エアコンにはエコポイントが付されるが、中間期などにエアコンの使用を抑えようとする人に恩恵がない。このような人たちが得をしたり、メリットがあるような仕組みが必要である。
- 委員等
- ・「自転車利用」を盛り込むとよい。車を我慢して自転車を利用するのではなく、自転車を利用する人が快適に暮らせる街づくりが望ましい。自動車利用を我慢するのではなく、自転車が楽しく利用できるような街づくりが行えるとよい。
- 委員等
- ・夏にエアコンが必要になるのは、アスファルトやコンクリート等で街なかが暑いからであって、もっと緑が多ければ暑さは抑えられる。道路の並木は、「葉が繁ると標識が見えない」、「落ち葉の処理が大変」等の理由で結果的に貧相なものになりがちであるが、逆に、緑を大切にすまちなにしてしまうという考え方もある。
- 委員等
- ・環境省の試算では、先端技術を集約した「ドラえもん型都市」でも、自然豊かな「トトロ型都市」でも、2050年にCO2の80%削減は可能とされている。福岡市ではどのような未来の都市像を描くのか。
 - ・コンパクトに集約して、先端技術でエネルギー排出抑制を図るのか、あるいは、むやみに集約せずに自然と共生するような街としていくのか、いずれを選択するのは大きな分かれ目である。
- 事務局
- ・アイランドシティでは、どちらかといえば後者を目指しているといえる。クールスポットや風の道等を計画し、また、先端技術も使いながら、街づくりをすすめていっている。ご説明したビジョン項目原案では、先端技術を入れることが強調されていて、バランスに欠けているかもしれない。
- 委員等
- ・「1. 目的」に「先導的モデル事業についても適宜盛り込む」こととするとあり、また、「(2) 取り組みの方向性①全体(ア)先進性」の項に「個別プロジェクト」とあるが、これらは同じものを指すのか。
- 事務局
- ・同じものを指している。
- 委員等
- ・先導的モデル事業を適宜盛り込んでいくというのは、これから進めていくプロジェクトでも先導的モデル事業を実施していくということか。
- 事務局
- ・現在のところ、CO2ゼロ街区以外でのモデル事業の実施については未定であるが、ひとつひとつの開発がその時点でのモデルとなるような事業になるように開発をすすめていきたい。そのような意味では市5工区全体がモデル事業の固まりのようになっていたら良いを思っている。
- 委員等
- ・「1. 目的」にある先導的なモデル事業とは、積水ハウスが手がけているCO2ゼロ街区のことか。
- 事務局
- ・その通り。今後どのようなモデル事業が織り込めるか、については、プロジェクトが進んでいく段階で個別に検討したい。

- 委員等
- ・先端技術をその都度取り入れていく考え方とする以前に、住宅を集約化して周辺を森にするなど、どのような考え方で街づくりを行っていくか、を検討することが必要であろう。
 - ・内陸型の街づくりでも導入可能なメニューが主のように見受けられるが、アイランドシティのように、海の中に立地する特性を活かしたメニュー（例：風況条件に合わせた風の道等）を取り込む視点も必要ではないか。既に計画に折り込まれているのか。
- 委員等
- ・具体的な計画までには至っていないが、骨格形成の考え方等については「アイランドシティ事業計画」で項目出しは行っている。
- 事務局
- ・水と緑など、基本的な内容については、「アイランドシティ事業計画」に盛り込んでいる。
- 委員等
- ・先進的な技術を取り込むことが強調されているが、「先進性の持続」といった観点から、システムを切り替えることができるフレキシビリティも必要である。
 - ・コストを抑えてそこそこの環境が確保できるようなモデルもあってもよい。大規模開発なので、濃淡があっても良いのではないか。
 - ・断熱のような、後からは変更しにくい基本的な要素は当初からきちんと折り込んでおき、後年度に追加が可能なメニューは、後から追加するという考え方もある。
- 委員等
- ・50年先の技術は、現状はそこそこ見えている。問題は技術を一般の人がみて、そのような技術がある家に住む気にさせることが重要。
- 委員等
- ・導入と普及は別であり、普及して市民に手が届くことが必要である。先端技術を一般に普及させるためには、導入して明らかになった課題に対して、普及させていくために市が採るべき施策を明らかにしていくことが必要である。このような「政策化」の考え方を追記しておくとうい。
- 事務局
- ・どちらかという、最先端のものを入れるというより、実証実験等が行われて効果、課題等が明らかになったもの、ある程度安定性はあるが、価格が高いために普及していないもの、爆発的な普及には至っていないが、市場には既にでているもの、を入れていくイメージである。
- 委員等
- ・技術はどこでも似たり寄ったりなので、「独自性」がポイントになるのではないか。「技術」がないと低炭素化は図れないのは事実と思うが、「技術」が先行するのはいかなものか。精神論や生き方のような要素を先に謳うべきではないか。コミュニティを中心とし、それに技術が加わるようにすべきではないか。
- 委員等
- ・技術的な要素は、他地域がより先端的なものを導入すれば、陳腐化してしまう可能性がある。
- 事務局
- ・地域、コミュニティ、住む人のマインドといった要素に関する仕掛けが独自性を打ち出すきっかけになる。
- 委員等
- ・アイランドシティは海に面しており、野鳥公園など自然環境を備えていることも独自性の要素になるう。
- 委員等
- ・アイランドシティには、豊かな自然とそれと共生するグリーンアイランドと

- いう基本コンセプトがある。また、効率的なエネルギー利用や低炭素型街づくりといった環境・エネルギー面でのコンセプトもあり、これを具体的なビジョンとして描いていきたい。街の考え方、暮らし方等のことも既に「アイランドシティ事業計画」に盛り込まれている。一度それらを整理してみたい。
- 委員等
- ・「独自性」の中身を具体的に検討し、分野別にどのように反映させるか、について検討する必要がある。
- 委員等
- ・居住者を同じようなマインドの居住者だけに限定してしまってもよいのか。我慢を強いるような考え方の人だけに、限定した住宅を供給するのは厳しい状況にあらう。
- 委員等
- ・ビルトインされている設備は、我慢せずに利用するのは当然と考えて良いのではないか。
- 委員等
- ・どこまで許容範囲とするのか、については、全体の内容との整合を図りつつ、記述内容を事務局で検討されたい。
- 委員等
- ・導入する先端技術については、今後の普及可能性、導入効果を見極める必要がある。
 - ・市5工区全体における自然と調和した街づくりに位置づけたうえで、CO2ゼロ街区において、どこまで先端的技術を入れていくのか、先生方のご意見をいただきながら検討し、環境に配慮したすばらしい街ができればよいと思う。
- 委員等
事務局
- ・「アイランドシティ事業計画」と当ビジョンとの関係は。
 - ・「アイランドシティ事業計画」は総花的な記述になっている。当ビジョンは、その内の環境面についてのテーマを切り取って膨らませて、分かり易く示したものとしてみとめたい。
- 委員等
事務局
- ・「将来像」と「ロードマップ」という理解でよいか。
 - ・その通り。
- 委員等
事務局
- ・「アイランドシティ事業計画」を各委員にも配布されたい。
 - ・了承。送付させていただく。
- 委員等
- ・本日の意見を踏まえて、ビジョンの目次構成の見直しをされたい。

4. その他 ―今後のスケジュールについて―

次回(第2回)は、各委員のスケジュールを踏まえて、11月4日(木)10:00から開催することとされた。

以上